



大名庭園の近代

小野芳朗
本康宏史
三宅拓也
Ono Yoshiro
Motoyasu Hiroshi
Miyake Takuya

思文閣出版

小野芳朗・本康宏史・三宅拓也 [著]

大名庭園の近代

2018年 6月刊行

定価:本体8,000円(税別)

▶A5判・472頁

ISBN978-4-7842-1909-4

おの・よしろう…京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授
『水系都市京都』(思文閣出版)、『清潔』の近代』(講談社)
もとやす・ひろし…金沢星稷大学経済学部教授
『軍都の慰霊空間』(吉川弘文館)
みやけ・たくや…京都工芸繊維大学デザイン・建築学系助教
『近代日本〈陳列所〉研究』(思文閣出版)

大名庭園が語られるとき、お殿様がいた近世に注目が集まるのに対し、〈近代〉はまったく忘れられてきたのではないか？

ところが幕末維新を経て、明治・大正・昭和という激動の時代をくぐりぬけるあいだに、庭園自体も、その都市のなかでの位置づけも、大きな変容をとげている。そして現在流布している各庭園のイメージは、じつは近代に形作られたといつてよい。

こうした問題意識から、大名庭園のいまを知るために決して見落とすことができない近代の歴史を掘り起こす。

〈内容目次〉

第一部 岡山後楽園 小野芳朗

後楽園と東山開発
都市計画公園と後楽園
借景と風致

*コラム1 大名庭園の価値づけ——後楽園の水を巡る言説

第二部 金沢兼六園 本康宏史

「兼六公園」の誕生——庭園から公園へ
「日本三名園」というブランド
「大名庭園」の創設

二つの銅像と「加賀百万石」の記憶
慰霊と顕彰の都市空間

*コラム2 「兼六園」のシンボル

第三部 水戸偕楽園 三宅拓也

偕楽園から常磐公園へ
東京からの遊客と行幸啓
観梅列車と観梅デー

藩祖顕彰と常磐公園——幻の徳川光圀像建設計画
「近代」の視点による再評価

*コラム3 もうひとつの公園——弘道館

第四部 高松栗林公園 三宅拓也

明治初期の栗林公園

博物館建設と公園改修——明治30年代初頭の公園整備
名所としての宣伝——関西府県連合共進会と旅行ガイドブック
北庭改修——大正初年の公園整備

観光のネットワーク——市内交通の発展と史蹟名勝・国立公園
公園内施設の多様化

*コラム4 岡倉覚三がみた栗林公園

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-533-6860 fax. 075-531-0009
https://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	大名庭園の近代 本体8,000円(税別)		ISBN978-4-7842-1909-4	
お名前		tel		本書HPのQRコード	
ご住所	〒	e-mail			
送本方法	代引(書籍代+消費税+送料600円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担) ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎				



茶と室内デザイン

小泉和子編

日本的とされる日本住宅の室内デザインはほとんどが茶によって育まれた。茶が日本住宅の室内意匠にあたえた影響について、それぞれの専門の立場からの論考を収録し、豊富なカラー図版とともに、茶道と室内デザインの関係性を考える。

▶B5判・224頁／本体3,500円(税別) ISBN978-4-7842-1808-0

茶の湯空間の近代 世界を見据えた和風建築

桐谷邦夫著

高度な技術と類まれな空間構成と意匠をもつ数寄屋建築は、近代において世界から高い注目を集めるようになった。近代数寄建築の数少ない専門家である著者が、茶の湯の系譜を考慮しつつ、「茶の湯空間」が近代においてどのように理解されてきたのかを読み解く試み。

【平成30年度茶道文化学術奨励賞受賞】
▶A5判・280頁／本体5,800円(税別) ISBN978-4-7842-1930-8**講座 日本茶の湯全史 [全3巻]**

茶の湯文化学会編

茶の湯文化学会創立20周年記念出版。「中世」「近世」「近代」の3巻にわけて、時代を輪切りにしながら見る本編と、茶の湯の重要な要素を通史として見渡す特論から成る。各巻には時代別の概説と研究の手引き、参考文献を掲げ、研究課題を提示する。最新の研究成果をふまえて茶の湯を通覧する、まったく新しい概説書。

▶46判・平均330頁／各本体2,500円(税別)

元伯宗旦の研究

中村静子著

「利休の孫」として知られる元伯宗旦——その生涯は病気がちで不明な部分が多く、残された史料から全体的な姿を解明することは難しい。徳川幕府体制が確立し、大名茶全盛を迎えた時代に、誰に仕えることなく自身の茶の湯を追求し続けた宗旦の姿を、多数の史料を丁寧に読み解くことで複眼的に究明する。

▶A5判・430頁／本体7,800円(税別) ISBN978-4-7842-1760-1

茶の湯 恩籟抄

戸田勝久著

裏千家今日庵歴代一人ひとりについての論考「裏千家 今日庵歴代」(13篇)、茶の湯ゆかりの人物をめぐって茶の湯の精髓が語られる「茶の湯掃苔抄」(12篇)、時空を自在に行き来する「江戸東京茶の湯散歩」(深川編8篇・日本橋編16篇)の3部構成。

▶A5判・652頁／本体5,500円(税別) ISBN978-4-7842-1751-9

春秋 京大和翠紅館 平安から平成まで 京の雅

木村幸比古・中根史郎・中村昌生著

京都の老舗料亭京大和。その歴史・庭・建物を、カラー口絵と解説で紹介。特に、江戸時代の翠紅館の姿そのままに大正時代に建てられた建物や敷内流の茶室について、和建築の第一人者である中村昌生氏が、多数の図面とともに詳述する。

▶B5判・80頁／本体2,800円(税別) ISBN978-4-7842-1417-4

京都 実相院門跡

宇野日出生編

四季の美しさで巷に知られた門跡寺院、実相院。そんな格式ある実相院の内情について、できる限りの探求を試みた最初の研究書。総論と各論から構成され、各論では建築・庭園・絵画・彫刻・文学・史料それぞれの専門研究者が最新の調査研究成果を執筆。

▶B5判・144頁／本体2,000円(税別) ISBN978-4-7842-1835-6

近代京都の美術工芸 制作・流通・鑑賞

並木誠士編

明治・大正期の京都で制作・流通・鑑賞された絵画、工芸、建築、庭園さらには定期刊行物や書物など広範なジャンルをとりあげて論じることにより、近代京都の美術工芸をめぐる状況の解明を試みる。いまだ途上にある近代京都の美術工芸研究を更新し、その作品や資料の評価、位置づけを問い直す論集。

▶A5判・608頁／本体11,000円(税別) ISBN978-4-7842-1938-4

野村得庵の文化遺産

野村美術館学芸部編

野村グループの創始者・得庵野村徳七(明治11年～昭和20年)の文化遺産の精華は、京都の別邸碧雲荘(重要文化財)と、その隣で得庵のコレクション3000点を所蔵・展示する野村美術館に伝えられている。本書は、野村美術館設立30周年記念事業として、野村得庵の文化活動に焦点を当て、各分野の第一人者が論文集の形でまとめる伝記。

▶A5判・506頁／本体3,000円(税別) ISBN978-4-7842-1701-4

庭と建築の煎茶文化 近代数寄空間をよみとく

尼崎博正・麓和善・矢ヶ崎善太郎編著

大正以降、庭・建築に取り入れられた煎茶的な趣向は、茶の湯の世界と融合し、新たな近代数寄空間を形成していったことから、煎茶に興じた数寄者たちの好みや背後にある煎茶文化をふまえずして近代数寄空間は理解できない。これまで茶の湯の視座からのみ語られてきた近代数寄空間を煎茶的要素からよみとく、新たな解釈を提示する。

▶A5判・352頁／本体5,500円(税別) ISBN978-4-7842-1944-5

岡倉天心 五浦から世界へ

茨城大学国際岡倉天心シンポジウム2016

茨城大学社会連携センター・五浦美術文化研究所編

茨城の北端・五浦(いづら)での生活と思索は、岡倉天心に何をもたらしたか。2016年の国際シンポジウムの記録を再構成。附録に東日本大震災で流出した六角堂の復元記録、主要な遺品の解説をカラー掲載。

▶A5判・216頁／本体3,200円(税別) ISBN978-4-7842-1931-5

茶の湯と音楽

岡本文音著

室町時代後期から江戸時代初期の千利休による大成という、茶の湯が発展・拡大へと向かう時期の文献をひもときつつ、「音楽」の世界をとらえてみる茶の湯の美意識を、大きく能楽(第1章)、「峯すり」(第2章)、茶の湯の釜の煮え音「五音ノ湯アヒ」(第3章)、茶の湯空間における音(第4章)という4つのトピックから明らかにする。

▶A5判・376頁／本体7,800円(税別) ISBN978-4-7842-1606-2

茶譜 [全2冊]

谷尻・矢ヶ崎善太郎校訂

茶湯古典叢書5

茶譜(全18冊)は、利休・織部・遠州・宗和・宗旦のそれぞれの茶匠とその時代の茶の湯を、確かな情報に基づいて茶の湯の分野ごとに再編集したものである。西尾市岩瀬文庫蔵本を底本とし、現存する諸本と校合して全編活字化。挿図についても別冊の写真版で全て収録。

▶A5判・本文篇756頁、図版篇168頁／本体20,000円(税別) ISBN978-4-7842-1528-7

日本庭園像の形成

片平幸著

「日本庭園」は西洋でどのように理解され、解釈されたのか、そして日本はそれに対してどのように反応したのか。19世紀末から20世紀初頭の欧米人の日本庭園論、それへの日本人の反応、という両者の「往還」を丁寧にたどり、1930年代に至って日本庭園の「独自性」が規定されていく過程を追う。

▶A5判・240頁／本体4,000円(税別) ISBN978-4-7842-1718-2

近代日本の歴史都市 古都和城下町

高木博志編

【オンデマンド版】

「古都」京都・奈良、「加賀百万石」の金沢、伊達政宗の仙台など、都市は実にさまざまな歴史性をまとっているが、それらは近代化の過程で発見され選り取られたイメージであった。本書は「都市の歴史性」をキーワードに、分野を超えた研究者たちが参加した京都大学人文科学研究所・共同研究「近代古都研究」班の成果。(初版2013年)

▶A5判・602頁／本体12,000円(税別) ISBN978-4-7842-7032-3

京都 近代美術工芸のネットワーク

並木誠士・青木美保子編

人を中心とした、近代京都の美術工芸にまつわる「ヒト・モノ・コトのネットワーク=面」からアプローチすることで、ビッグネームだけでは構築されない美術工芸の現場をあぶり出し、よりヴィヴィッドな美術史を提示する。

▶A5判・352頁／本体2,500円(税別) ISBN978-4-7842-1882-0

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年2回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。